

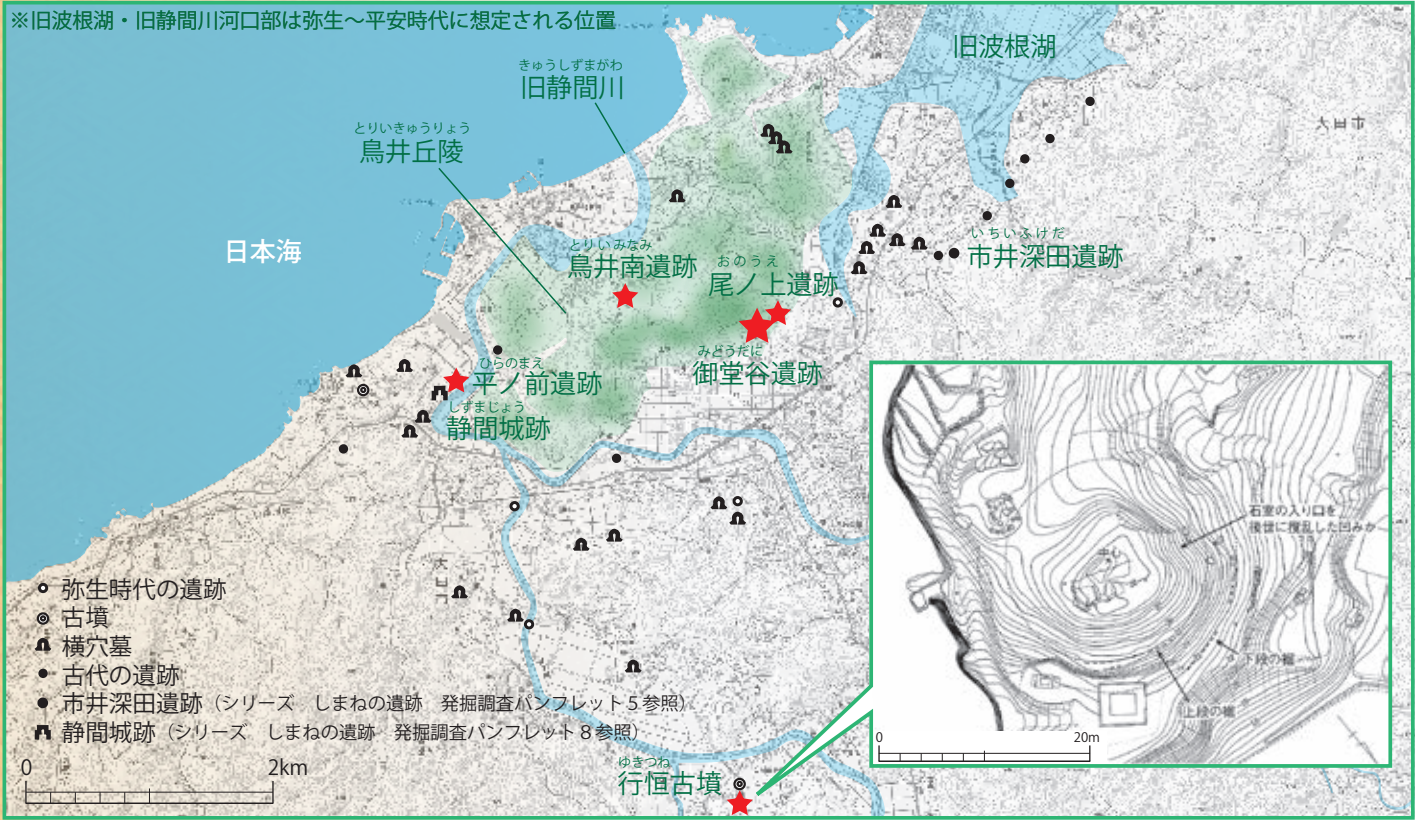
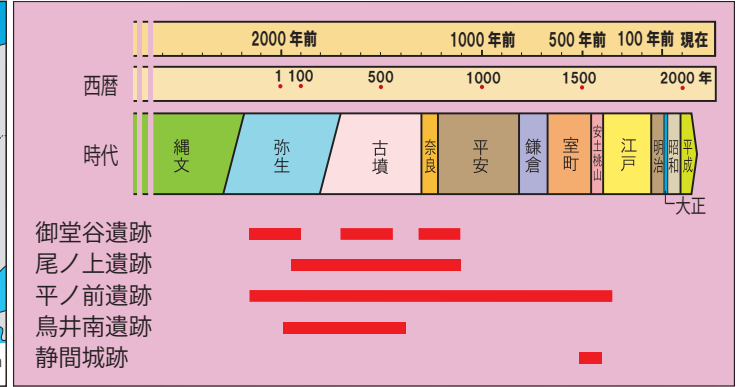
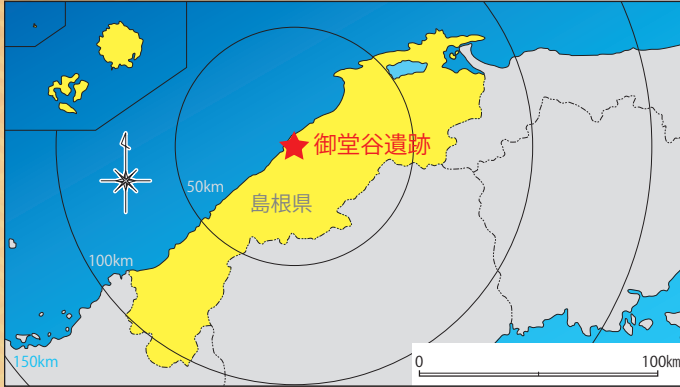
み どう だに い せき
御堂谷遺跡

大田市・鳥井丘陵周辺の遺跡群



はじめに - 鳥井丘陵とその周辺 -

島根県大田市にある御堂谷遺跡は、鳥井丘陵の中腹に営まれた原始・古代の遺跡です。標高100mに満たない鳥井丘陵のかつての景観は、東に波根湖から北には静間川の河口湖など日本海に面した良港に囲まれ、独立丘陵のようなものでした。いわば大田市中心部のランドマーク的存在です。近年、鳥井丘陵とその周辺から、弥生・古墳時代の重要遺跡の発見が相次いでいます。



鳥井丘陵周辺の遺跡群 (弥生時代～奈良・平安時代を中心に)



鳥井南遺跡 (南東より)



鳥井南遺跡 (北西より)

日本海と大田市内の平野部に臨む2つの集落(弥生時代～古墳時代)



鳥井南遺跡 竪穴建物から日本海を望む



鳥井南遺跡 古墳時代の住居跡

とりいみなみ

鳥井南遺跡は、日本海と大田市内の平野部に臨む鳥井丘陵最大の集落遺跡（弥生時代～古墳時代）です。県内でも有数の集落規模で、30基を超える竪穴建物や加工段が見つっています。弥生時代中期末頃～後期前半、古墳時代中期に遺跡のピークがある点は御堂谷遺跡とよく似ています。

しかし、集落の規模は圧倒的に大きく、古墳時代中期には集団的な祭祀も行われるなど、鳥井丘陵にある中心的な集落といえます。



平ノ前遺跡全景（南より）



弥生時代後期の用水路



古墳時代後期(6世紀後半)の大溝に集積した大量の遺物



大型掘立柱建物の柱の科学分析で西暦560年に建設と判明



金銅製の空玉
(朝鮮半島からの渡来品)

ひらのまえ

平ノ前遺跡は、鳥井丘陵の西端、静間川左岸の標高4～5mの低地にある弥生時代後期～古墳時代・古代を中心とする遺跡です。灌漑施設を有する弥生時代後期の溝や、古墳時代の大溝、竪穴建物や大型の掘立柱建物が見つかりました。

とくに古墳時代においては、6世紀における静間川下流域開発に伴う利水・灌漑施設の拠点、あるいは、人や物資が集積する港などの交通拠点で6世紀にヤマト王権が各地に設置した地域支配の拠点である屯倉(ミヤケ)の可能性も指摘されています。また、この拠点を管理した人物が、静間川の中流に築造された行恒古墳(地域最大規模の横穴石室墳・6世紀中頃)に葬られた可能性も考えられています。

御堂谷遺跡の全貌

山陰自動車道（大田静間道路）の建設に先立ち、平成29年（2017年）に発掘調査がおこなわれた御堂谷遺跡では、弥生時代前期から奈良・平安時代にかけて、断続的に営まれた古代人の生活の痕跡が見つかりました。

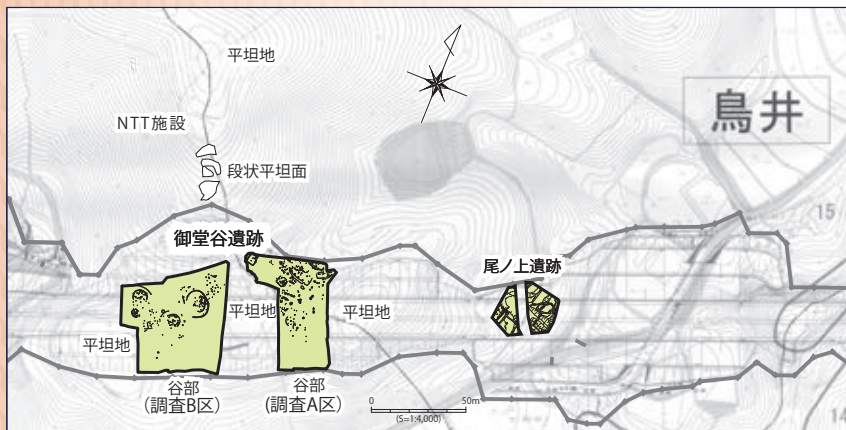
弥生時代後期（紀元2世紀）と古墳時代中期（紀元5世紀）は、鳥井南遺跡と御堂谷遺跡で人々が暮らしていました。この2つの遺跡は、直線距離にして、約500mの至近距離にあります。



東上空から見た御堂谷遺跡



西上空から見た御堂谷遺跡



御堂谷遺跡、尾ノ上遺跡と周辺地形

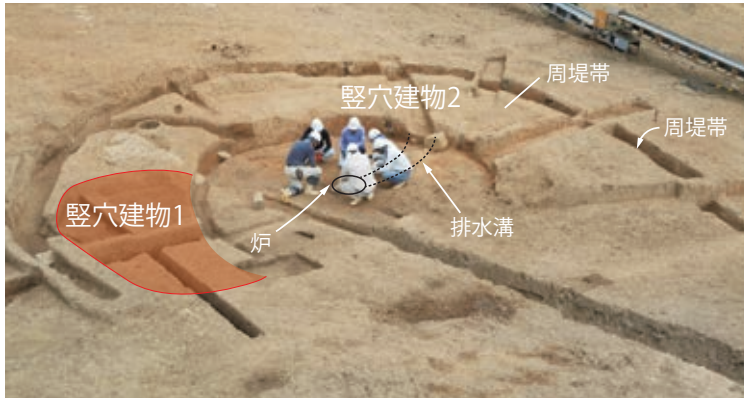
御堂谷遺跡は、鳥井丘陵東南部の中腹、標高約53mに位置する遺跡です。丘陵中腹には3つの平坦地とその間に2つの谷部が存在します。この2つの谷部（調査A区と調査B区）から、数多くの土器と建物跡が見つかりました。



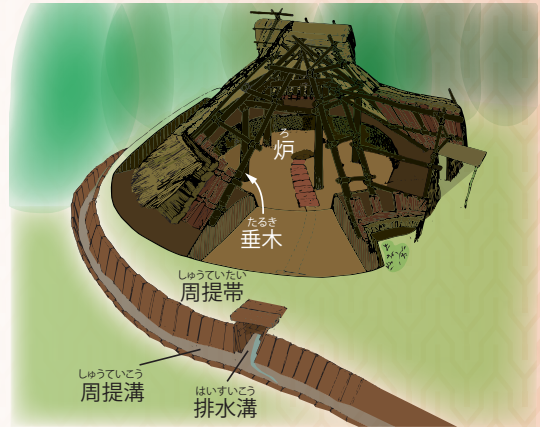
御堂谷遺跡発掘調査範囲

弥生時代の御堂谷遺跡

弥生前期後半には竪穴建物などの明確な遺構は確認されていません。しかし、谷部に堆積した包含層から、この時期の土器が大量に出土しました。これは、御堂谷遺跡で出土している土器の約80%を占めています。その後、弥生時代中期末～後期前半にかけて、竪穴建物を伴う集落が営まれます。



竪穴建物1と竪穴建物2



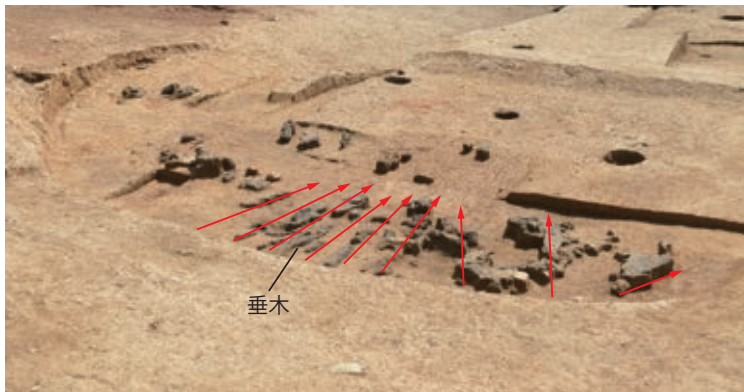
竪穴建物の周堤溝

とっても深い周堤溝！

竪穴建物2の周囲には深さ160cmにも達する溝が掘られていました。建物の屋根から滴り落ちる雨水を、排水するための溝です。

このような深い溝は、鳥井南遺跡の竪穴建物でも見つかっています。このことから、鳥井丘陵に別々に営まれた集落間で、建物づくりに関する情報が共有化されていたことが分かります。

つまり、これらは同じ集団の集落であったのかもしれない。



竪穴建物3

焼失していた竪穴建物！

竪穴建物3からは、火事によって焼け落ちた垂木などの部材が、見つかりました。

建物の中には土器などの遺物が殆んど見つからなかったため、内部を片付けた後に意図的に火を放った可能性も考えられます。



竪穴建物3 (拡大)



竪穴建物3の周堤溝の中心に1点だけ据え置かれていた壺

弥生時代の御堂谷遺跡



竪穴建物 4 (弥生時代後期、直径4mと小ぶりな建物)

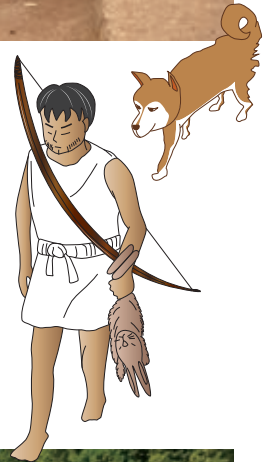


竪穴建物 5 (弥生時代中期末、御堂谷遺跡で一番古い竪穴建物)



山陰最古級のガラス玉！

このガラス玉は、弥生時代中期後葉に建てられた竪穴建物 5 から見つかりました。理科学分析の結果、銅・マンガン着色のカリガラス製小玉であることが判明しました。



尾ノ上遺跡の大溝 (上から)

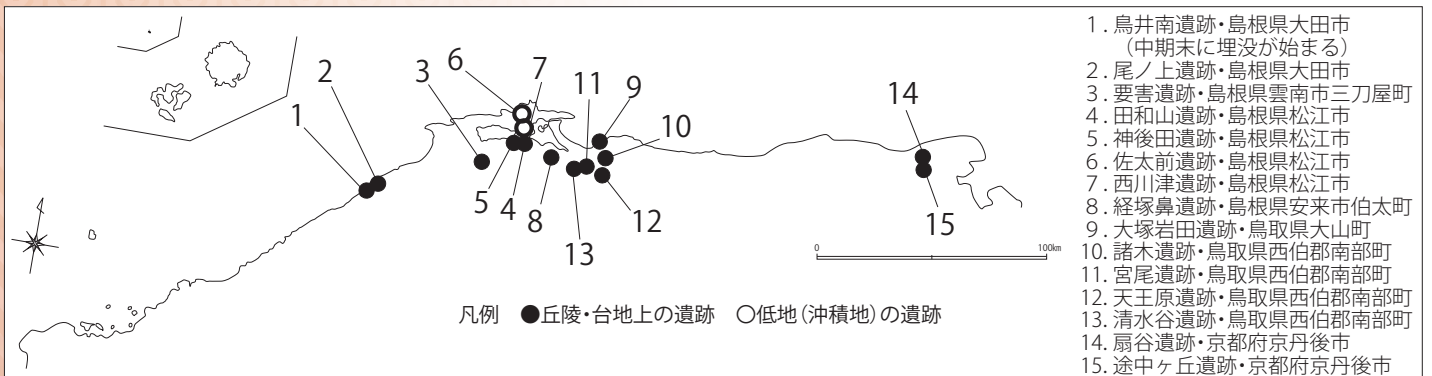


尾ノ上遺跡の大溝 (下から)

鳥井丘陵の環壕か!? 深まる謎!

御堂谷遺跡の東側の丘陵裾に位置する尾ノ上遺跡では、自然地形を利用した可能性もある弥生時代前期後葉に遡る大溝が発見されました。鳥井丘陵の東端を防御する環壕の可能性もあります。

弥生時代前期末頃（紀元前4～3世紀）、日本海側では丘陵や台地の上に環壕を伴った遺跡が見つっています。なぜ、この時期に環壕を伴う遺跡が集中して見つかるのでしょうか？山陰の弥生社会に、争乱などの緊張した社会関係が生じた可能性も考えられますが、定説には至っていません。環壕が共同体のシンボルとして機能した可能性を含めて、今後の研究課題の一つです。



日本海沿岸における弥生時代前期後葉～末の大溝(環壕)が見つかった遺跡

古墳時代中期の御堂谷遺跡



竪穴建物9 (古墳時代中期)



加工段1 (古墳時代中期、ここには掘立柱建物が建てられていた)

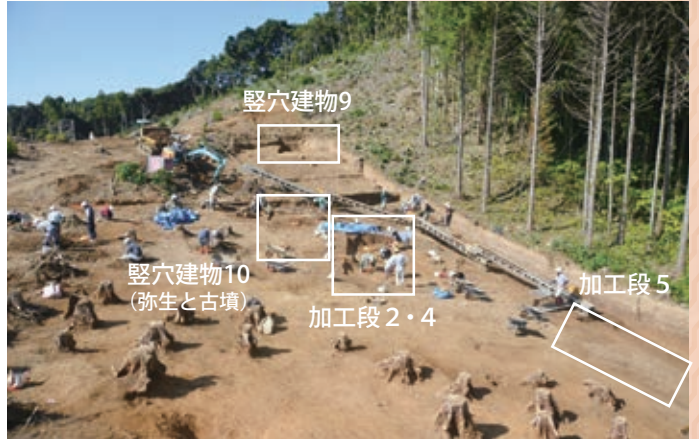


土製勾玉

この土製勾玉は、竪穴建物9から出土しました。全長は3.5cmあります。鳥井南遺跡の祭祀跡から見つかったものと類似しています。



鳥井南遺跡出土の土製模倣品



鳥井南遺跡では、古墳時代中期前葉（5世紀初頭前後）に、土製模造品を使用した祭祀が行われていました。竪穴建物9から土製勾玉が出土していることから、この遺跡の住人が鳥井南遺跡の祭祀に参加した可能性も考えられます。

古代の御堂谷遺跡



竪穴建物11 (飛鳥時代、山陰沿岸部では数少ない造り付けの竈を持つ竪穴建物)



古代の竪穴建物 (7世紀末)

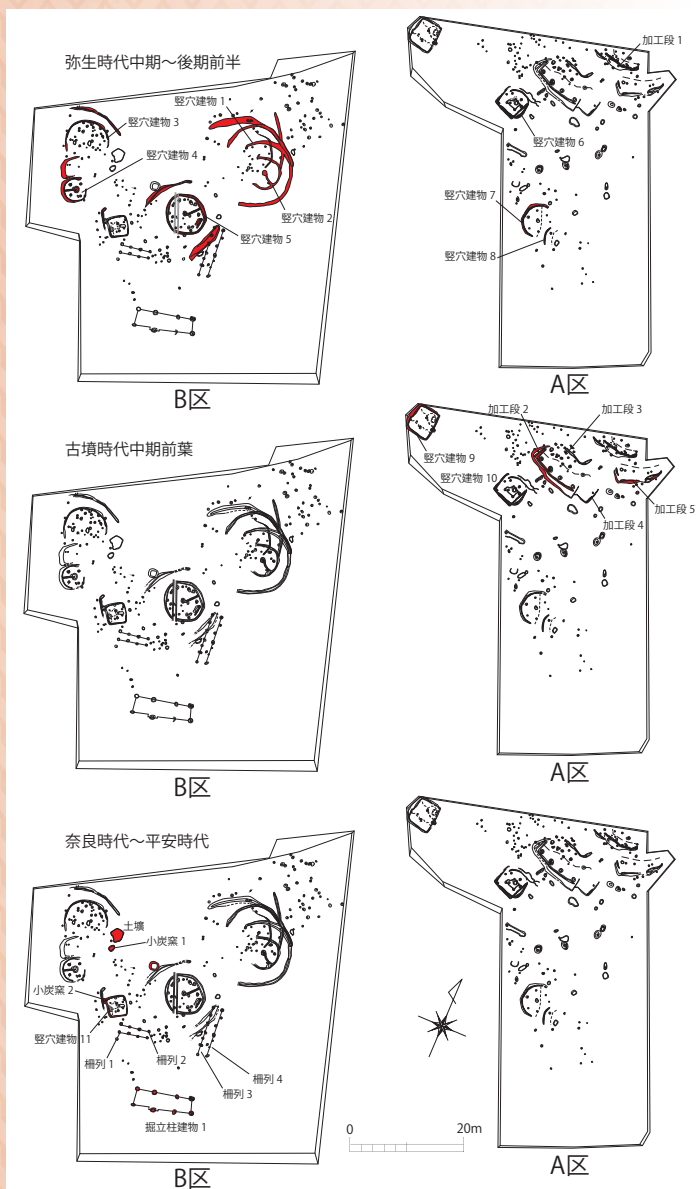
御堂谷遺跡では、8世紀後半を中心とした仏教に関連する遺物が多数出土しています。脚付の盤、灯明皿形土器、水瓶などが出土しています。また、谷の中央部に「門」と考えられる掘立柱建物の遺構も見つかっています。奈良・平安時代における石見の仏教信仰を考える上でも、貴重な発見です。



脚付の盤

灯明皿形土器

すいびょう水瓶



御堂谷遺跡の遺構の時期の変遷とそれぞれで出土した土器類

鳥井丘陵と御堂谷遺跡

鳥井丘陵は日本海を望む大田市中心部のランドマーク的な存在です。丘陵の周辺には、弥生時代～奈良・平安時代を中心とした数多くの遺跡があり、ヤマト王権や九州北部、あるいは朝鮮半島諸国との活発な交流が行われていることがわかってきました。御堂谷遺跡では、島根県内最古級のガラス小玉が出土していることから、九州北部やより西方の世界（東アジア）とつながっていたことが想像されます。

御堂谷遺跡は、鳥井丘陵では最も早い時期（弥生時代前期後葉）から、人々の暮らしが始まった遺跡です。数多く出土した土器は、そのことを物語っています。そして、鳥井丘陵の拠点集落である鳥井南遺跡の二つの最盛期（弥生時代後期前半と古墳時代中期）と歩調を同じくしています。二つの集落は密接な関係にあったことが、うかがえます。しかし、奈良・平安時代になると、御堂谷遺跡からは集落としての性格が薄れ、むしろ仏教信仰に関わる宗教施設（山寺など）があった可能性が浮かび上がってきました。「御堂谷」という字名は、それを暗示するものと考えられます。

このような変遷を辿るのが御堂谷遺跡の特徴ですが、今後も鳥井丘陵周辺の重要遺跡との関係を検討することで、より豊かな古代石見の歴史像が解明されることが期待できます。

【写真・図版の引用】

- 1・2頁の鳥井南遺跡の写真：大田市教育委員会提供
- 4頁の竪穴建物の復元イラスト：鳥取県教育委員会 2004 を参考に作成
- ※鳥取県教育委員会 2004 『弥生のすまいを探る』（第5回弥生文化シンポジウム）
- 6頁の鳥井南遺跡出土の土製品模造品の写真：島根県立古代出雲歴史博物館提供

編集・発行 令和元(2019)年9月
 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
 〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL(0852)36-8606
 E-mail maibun@pref.shimane.lg.jp
 URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>